



京都に押し寄せている 外国人観光客

京都府鍍金工業組合 近藤 慶太
(清水長金属工業株式会社)

全国鍍金工業組合連合会の皆様、初めまして。京都の清水長金属工業株式会社の近藤でございます。代表に就任し、早いもので2年が経とうとしております。

この度は「組合員の広場」への寄稿の機会をいただきありがとうございます。

何を書こうかと無いアタマを悩ませましたが、京都で生活する者ならではの「京都に押し寄せている外国人観光客」について書いてみようと思います。

それにしてもですね、近年の京都には異常な数の外国人観光客が来ています。はい、半端な数ではありません。ひと昔前は中国や韓国を筆頭に大半がアジア諸国の方々だったように思いますが、近年では欧米や豪州の金髪系の外国人がドッと増えました。コロナのパンデミック終息以降に、仕事や観光で京都に来られた方はこの現状をご存知の方も多いのではないのでしょうか。京都への玄関口であるJR京都駅の新幹線ホームは、両手でデカいスーツケースをガラガラと引く人達で常にごった返しています。観光地や街中を歩いても、自分はどこにいるんだろ？と考えてしまうぐらい色々な国の言語が飛び交っています。観光地に限らず、我々地元民の普段の生活道路にも人が溢れている光景を目にすることも増えました。そして、今は外国人観光客目当ての大小のホテルや飲食店、土産物屋さん等の建築ラッシュの真只中です。

外国人観光客と京都は、現代の日本観光を語る上で切り離せない関係になったようです。ここ京都は海外の人々にとって「日本らし

さ」を最も強く感じられる場所の一つであり、彼らの中では常に高い人気を誇っています。皆様もご存知の清水寺や金閣寺、伏見稲荷大社の千本鳥居などはSNS等を通じて今では世界的に知られ、京都を象徴するイメージとして定着しました。近年では嵐山の竹林や京都の舞妓文化を感じられる祇園・花見小路界限、世界遺産にも登録されている二条城にも多くの外国人が足を運ぶようになりました。

また、京都では舞妓や茶道、和菓子作り、着物体験等の日本文化を実際に「体験」できるプログラムが豊富に用意されています。旧くから残る京町家を改装した宿泊施設や飲食店も増え、京都の伝統と現代を融合させた建物や雰囲気が海外から大きな注目を集めて京都の評価を高め、単なる「見る」観光から「体験する、理解する」観光へと関心が移る外国人観光客のニーズに合致しており、これ程までのインバウンド増に繋がったと考えます。

一方で、インバウンドの増加は「オーバーツーリズム」という大きな課題も浮き彫りになりました。京都の至るところでの混雑や国や文化の違いからくるマナー問題、地域住民の生活への影響など、京都ならではの繊細な景観や暮らしを守るための取り組みが求められています。京都では2026年3月より宿泊税を大幅に値上げすることになっており、今年の府全体の宿泊税徴収額は126億円に上ると試算されています。以前より財政が厳しいと言われていた京都市に取りましては大きな財源となり、我々多くの地元民が、ええやん！と思えるような税金の使い方をしてもらいたいと願っております。